

戦後 70 年
平和企画

2015 年度 春季特別展
山本宗補写真展

戦後はまだ...

刻まれた加害と被害の記憶



2015

5/3 [日] - 7/4 [土]

立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール

開館時間 / 9:30 - 16:30 (入館は 16:00 まで)

休館日 / 月曜日 (但し、5/4 (月・祝) は開館、5/6 (水) は休館)

参観料 / 大人 400 円 (350 円)、中・高生 300 円 (250 円)、小学生 200 円 (150 円)

* () 内は 20 名以上の団体料金です。* 先に地階受付で見学資料費をお支払いください。

* 国際博物館の日 5/18 は休館日のため、5/17 は無料公開です。

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会

KBS 京都、朝日新聞社、京都新聞、毎日新聞社、読売新聞社

立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University



京博連

私たちが知らないことは、まだ山のようにある。

戦後 70 年、戦後生まれの世代に、

共有されていない戦争の実態。

70 人の戦争体験者が語る実体験。

写真がとらえた記憶のヒダ。



1

2

戦争体験者らの取材を続けるフォトジャーナリスト山本宗補が、日本や中国など国内外 70 人の戦争体験者に取材した肖像写真と証言による写真展。出征、シベリア抑留、生体解剖、空襲など様々な戦争体験から、加害と被害が複雑に絡み合う戦争の実像に迫ります。戦争体験者の証言からは、日本の戦争被害の前には加害行為が存在し、その加害行為がさらなる被害行為として日本自らに及んできたことが伺えます。その加害と被害の重層性は社会できちんと理解されてきたとは言えず、現在に多くの問題を残しています。戦後 70 年を迎え、戦争体験が未だ清算されない今、我々が戦後史をどのようにとらえてきたのかを改めて考えます。

山本宗補 やまもと むねすけ

1953 年長野県生まれ。アジアを主なフィールドとするフリーランスのフォトジャーナリスト。日本ビジュアル・ジャーナリスト協会 (JVJA) 会員。1985 年からフィリピン、1988 年からビルマ (ミャンマー) 軍事政権下の少数民族問題や民主化闘争を取材。日本国内では「老い」と「戦争の記憶」をテーマに取材。「3・11」の翌日から福島県に入り、広河隆一氏らフリーランスの仲間 6 人で原発周辺での放射能汚染の実態を伝え、原発事故と大津波被災地に通い続ける。主著：『戦後はまだ…刻まれた加害と被害の記憶』(彩流社、2013 年)、『鎮魂と抗い—3・11 後の人びと』(彩流社、2012 年)、『3・11 メルトダウン—大津波と核汚染の現場から』(JVJA 編、共著、凱風社、2011 年)、『「戦地」に生きる人々』(JVJA 編、共著、集英社新書、2010 年)、『日本行脚 佐々井秀禎師大型写真集—44 年ぶり 母国日本 64 日間全記録』(大日如来南天铁塔記念協会、2010 年)、『見えないアジアを歩く』(見えないアジアを歩く編集委員会編、共著、三一書房、2008 年)、『また、あした—日本列島 老いの風景』(アートン、2006 年)、『フォトジャーナリスト 13 人の眼』(JVJA 編、共著、集英社新書、2005 年) 『世界の戦場から—フィリピン 最底辺を生きる』(岩波書店、2003 年)、『ビルマの大きいなる幻影—解放を求めるカレン族とスーチー民主化のゆくえ』(社会評論社、1996 年)

関連企画

【講演会&ギャラリートーク】5/3(日)13:30-15:30

山本宗補 (フォトジャーナリスト)

【講演会】5/30(土)13:30-15:30

林博史 (関東学院大学教授 現代史)

場所：立命館大学国際平和ミュージアム 2F 会議室 (ギャラリートークは展示室内)

聴講無料 ※当日参観料が必要です。詳細は HP をご覧ください。



3



4



5



6

1. 豊村美恵子 (2008 年) 2. 益永スミコ (2010 年) 3. 游鏡泉 (2008 年) 4. 鈴木則子 (2008 年) 5. 湯浅謙 (2010 年) 6. 鳥海豊 (2007 年) 表面：福島菊次郎 (2011 年)

